

サ

出会い ふれあい 助け合い

ロ

あべの

No.87

あべのカーニバル  
『さろん亭』開店

サロン・あべの八月の出会い  
平成五年八月八日(日)午後  
三時から、大阪市立工芸高校の  
グラウンド及び区役所において、

第20回あべのカーニバルが開催  
された。  
今年も人気の的は「なんでも  
市どおり」。その並びのほぼ中

共に、サロン・あべのお店  
「さろん亭」を開店した。

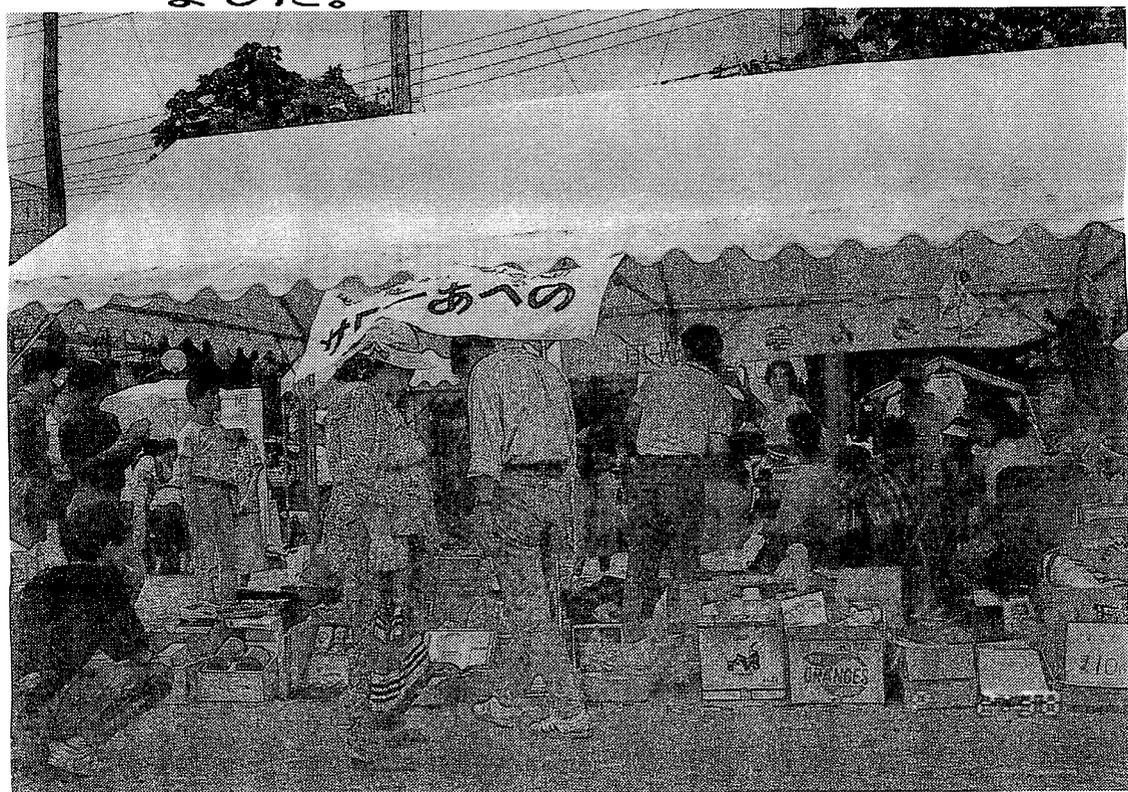
「さろん亭」は、サロン・あべのにとって、年に一度だけのバザー店である。その収益は、毎年サロンの運営資金の重要な部分を占めている。そしてこのバザーは、物品を提供して下さる方々、当日買ってくださいる方々、運搬や値付け、販売などのお手伝いをしていただく方々など、本当に多くのご協力に支えられているのである。

ほかのバザー店の顔ぶれは、ほぼ例年どおりであったが、このところの不景気が影響してか、少し商品が少なかったようにも感じられた。しかし、吹奏楽や大声コンテスト、ジャンポウルトラクイズに、ビッグ笑タイムなどの、多彩で楽しい催し物と共に、今年も熱気にあふれていた。

# 『さろん亭』 不参加の参加



さろん亭に参加できなかった人、  
その人の8月8日は・・・。なに  
はともあれ紙上参加していただき  
ました。



あべの・カーニバルに参加できなくて  
ミント・マアフ（ごめんなさい）

河合恵子

この八月、「もういちどジャカルタへ行ってみたい。そしてドリアン（マレー半島原産の果実。甘いが独特の酸味とにおいをもつ）を食べたい」という父の供をしてインドネシアを旅することになり、今年のアベの・カーニバルには行けませんでした。例年のサロンの行事に参加できず、とても残念。

インドネシアで訪れたのは首都ジャカルタと仏教遺跡ポロブドゥールで知られるジヨグジャカルタ（日本で言えば京都でしょうか）、そしてバリ島。熱帯性気候で四月から九月は乾期。東西に長い群島国家インドネシア（約一万三千の島から成る）には標準時間が三つあり、日本とバリは一時間、ジャカルタとは二時間の時差があります。ジャカルタは高層ビルの立ち並ぶな高速道路を車が猛スピードで走る都市。車線も車検もありません。それに比べてジヨグジャカルタやバリは歴史的な遺跡や寺院も多く、ゆっくりと不思議な時間が流れていきます。

あべの・カーニバルでサロンのバザーは今年もまた盛況であったとのこと。来年はお手伝いさせていただきますのでどうぞよろしく願います。

### 北海道ツーリング

加賀谷 正

今年、サロン亭をちょっと休んで、友人と北海道旅行をしました。

六日(金)に出発して、十二日(木)に無事帰ってきました。

六日の十二時頃、千歳空港に着き、札幌へはバスで入りました。札幌で単車(二五〇cc)を借りて、十八時に札幌のテレビ塔の所で、大阪から夜行で来ていた友達二人と合流、キャンプをしました。

七日は旭川から大雪山を通過して、サロマ湖まで行きました。牧場や畑、森林ばかりの雄大な景色で、北海道を走っているという実感が湧いてきました。

八日は、知多半島を通過して摩周湖に行きました。展望台から見たので、透明度で有名な水を確認できないのが残念でした。

九日は、阿寒湖から日高町に行き、キャ

ンプをしました。キャンプ場では、キタキツネが夕食の残り物を目当てに、顔を出して歓迎してくれました。

十日は、夕張市を通り札幌で単車を返しました。札幌から電車でニセコまで行き、おしゃれなペンションに泊りました。キャンプばかりでしたので、くつろぐことができました。

十一日は、ニセコから函館まで電車に乗り、その日の夜行列車で帰ってきました。

北海道は、あまりに広くて、たくさんのお光ができませんでした。

また、いつか機会をつくって、今度は少し豪華な旅行にしたいと思っています。

### 食欲不振、気力旺盛

齊藤 孝文

いつも、真心溢れるお便りをいただき感謝しております。

皆様には、お元気でご活躍のご様子、心からお喜び申し上げます。

バザーも天候に恵まれ、盛況裡に終えられよかったですね。

何の手助け出来ない私ですが、大変嬉し

く、皆様のご厚志やご支援に、感謝致しております。

今年の夏は、割りと涼しいので、どうにか乗り切ることが出来ました。食欲が落ち、主食の御飯を少しも口にすることが出来ないものですから、随分細くなりました。が、気力だけはしっかりと持っているつもりです。

今までのように外出もほとんど致しませんが、家の中でテレビを観たり、アチコチから送っていただく情報紙を読んだりして、静かに生活しています。

サロンの皆様様に、よろしくお伝え下さい。

### 不参加にエールで参加

辻本 輝子

居ながらにして、今年のさろん亭の大盛況と潤いのある成果が出たと、うれしい報告を聞きました。

思い返せばさろん亭の初期には、私の軽自動車に後ろが見えない程の寄贈品を積んで、汗して走らせたこともあったと。

毎年晩まくりで参加をと思いつ、意に

反して余儀無く終り、心苦しい限りです。

継続は力なりと、着実に歩みを伸ばし、さろん亭も寄贈、搬送、販売、購買と四つが、皆様方の熱い心でゆるぎない支柱となつた事に感動しています。

私のように目に見えない所で、精一杯の熱いエールを送っている者も居ると、そんな息を感じ取って、さろん亭をお手伝いして下さる方が、年々膨れ上り、沢山参加して下さる事に感激しています。

明日に向けて、さろん亭が増々大きな飛躍を遂げる事を心より願っています。

○「さろん亭」にお世話になった皆様方

青木さおり、旭 純子、赤松・菊間、安達尚子、阿倍野区肢体部カークラブ(竹下・吉田)、阿倍野区商店街連盟青年部、新土井英雄、石田 律、石田花子、伊勢村和子、上平幸雄、宇野律子、浦野清美、大高澄子、大谷美津子、岡 賀寿子、岡田敏男、岡本登志子、岡本憲俊、柿岡 緑、角方鈴子、金岡千恵、金子花江、岸川秀昭、木寺ちよ子、木村圭子、黒羽玲子、小西京子、古根川為治、鹿野敬一、ジョイフルたばこ

アベノユニオン、杉山薫江、大丸昭典、高尾澄男、武田真理子、竹村定子、田中マサエ、谷川久子、田淵美登利、チェ・グオン

辻本輝子、津村和泉、手島八重子、土井一典、富田慶子・十一・実幸、永井美智子、中西紀子、中西利香、中原友喜、中村美根子、中野君江、南光龍平・仁子、西 和子、長谷川マキエ、原田 仁・博子、林 浩司、東谷和代、平岡 太、平沢邦子、蛭子フサエ、福永享子、藤井さゆり、堀田ゆかり、町野旬子、松田峰子、松森美智子、丸山寿美子、三谷勢津子、森村ちかし、八木千代子、八島、山口豊子、山村貴司、山本篤江、山本鈴子、山本敏子、ユン、和田保子、吉原和朗、匿名四名。(敬称略)

「さろん亭」の売り上げは、金二一九、二七五円でした。

ありがとうございます  
第二〇回あべのカーニバル「なんでも市通り」に参加した「さろん亭」は、多くの皆様方に温かいご協力とご支援を受けて、盛況に開店することが出来ました。  
又、多くの皆様方との出会いを通して、今後のサロン活動に新たな励ましをいただいた思いが致しました。  
お手伝いいただきました皆様、ご協力、ご支援下さいました皆様方、本当にありがとうございます。

「さろん亭」の売り上げは、金二一九、二七五円でした。

ありがとうございます  
H・Tスペシャル

コンサートライブ '93

今年の特徴は、出演者個々が初めて曲作りに挑戦!!

ピアノの弾き語りもあるよ。  
皆さへん、是非来てください!

日時 10月31日(日)  
PM. 1:30スタート  
場所 びいどろほおる

地下鉄御堂筋線江坂駅  
⑧号出口徒歩5分  
SH江坂ビル3F

チケット 1000円  
出演者 坪田由美子(ホカ)  
滝ヶ平弘美(ピアノ)  
川本 一男(キーボード)  
福本 淳(何で遊ぶ)

問い合わせ 福本まで  
☎0721-25-6627

バティックをご存じですか？

赤道より南の国、数多くの島々からなるインドネシアと聞いて何を思い浮かべますか？

●河合恵子

作る

つくる

創る

③

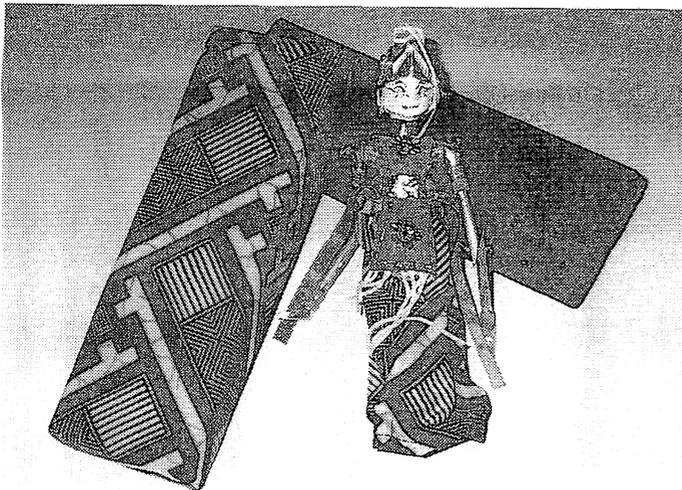
ジャワ島といえば・・・やはりジャワ更紗ではないかしら。そしてバティックはジャワ更紗のこと。国立ジャカルタ博物館には仏像をはじめ、数多くの興味深いコレクションがありますが、バティックのコーナーは見逃せませんが、けっして派手ではなく、落ち着いた色彩、そして繊細な文様。巧みに金を用いたものも多く、往時の丹念な仕事ぶりがしのべれます。

バリといえばケチャックダンス(男たちが輪になって唱い、激しいリズムをとるなか進められる舞踏劇)、パロンドンダンス(ガムランという器楽伴奏による音楽劇。獅子舞の獅子に似た善の象徴パロンが魔女ランダと戦う)あるいはワヤンというガムラン演奏付き影絵。そしてサイフィンをはじめとするマリンスポーツの盛んなリゾート地としても有名ですが、この島では寺を訪れると、サロンとよばれる腰布を巻いた人々に出会いますし、一般の観光客も布のかわりに腰紐を巻く信仰厚いヒンドゥー教の島。

ブラザバリという新しいシヨビイングセンター内でイカットとよばれる緋織りとバティックの防染のための糊置きをみたのですが、どちらも気の遠くなるような細かく単調な作業が続きます。

今秋、吹田の国立民族学博物館では「ジャワ更紗―その多様な伝統の世界」

展が、また国立国際美術館では「ニュー・ファッションへの展開―現代のジャワ更紗」展(共に九月九日から十一月三十日まで)が開かれます。興味のあるかたは一度会場をのぞかれてはいかがでしょうか。



## ●高齢者と在宅介護 2

● 神垣 真澄

今回より、介護に要する時間の実態調査にもとづく結果を紹介いたします。

二、在宅痴呆性老人介護者の介護時間(一)

痴呆症の高齢者の主たる介護者の協力を得て、介護者の生活時間調査を行いました。

これより、介護時間、介護内容についての実態を明らかにしていきます。また、痴呆症の高齢者の介護の特徴を明らかにするた



めに、同時に実施した寝たきりの高齢者の介護時間も参考にしていきます。それらの結果をもとに、最後に考察を行うこととします。

### 《研究の方法》

人口約四万の兵庫県T市において、六五歳以上で痴呆症の高齢者を主に介護している人を対象とし、生活時間調査を行いました。痴呆の判定は長谷川式スケールを用いています。調査は、NHKが実施している生活時間調査に準じ、行動分類について、食事、排泄、歩行・移動、入浴・清拭、着替え、代読、代筆、監視・話し相手、の八つの介護項目を加え、四〇項目としました。生活時間は、主たる介護者の十五分間隔による生活行動であり、十五分間に二つの行動をとった場合は、七・五分ずつと便宜的に分けることにしています。調査方法は留置法で、主たる介護者自身が記入したものです。調査は、昭和六十年二月三日(日)

と二月五日(火)の、休日と平日の両日について行われました。調査対象者は九十九名で、有効回答は、平日七十三票、休日八十一票を得ました。

### 《研究の結果》

分析は、①介護時間、②介護の行われる時間帯、③高齢者や家族の状況と介護時間の関係、の3つについて行いました。

#### ①介護時間

介護の種類別介護時間と一日の総介護時間について、それぞれの平均時間、標準偏差、最高時間、時間の長さの順位を、平日と休日の両日にわたって分析を行いました。その結果、介護の種類別および総介護時間についても標準偏差が大きく、痴呆症の高齢者介護と一口に言っても、介護時間には個人差が大きいことがわかりました。また、平日と休日との間に有意な差はみられず、介護時間は平日と休日で変化するものではないことがわかります。以下、平日での結

果を紹介します。

一日の平均介護時間は一五八・一分、約二時間四〇分との結果が出ています。しかし最高では九〇〇分と、一五時間にも及ぶケースもあります。

介護の種類別にみると、「排泄」の介護が最も長く、四二・四分となっています

(最高三二二・五分)。次いで「食事」が

長く、四〇・六分(最高一五七・五分)です。この2つの介護が、時間的に大きな割合を占めています。

そして、「入浴・清拭」、「歩行・移動」、「着替え」の介護が、それぞれ一〇分程度で続いており、「代読」、「代筆」は一分

から二分前後と、わずかです。

(出典) 神垣真澄、白澤政和  
「在宅痴呆性老人介護者の介護時間についての研究」、『研究紀要 第七号』

大阪市立大学社会福祉研究会、一九九〇年

## 一度で済むのだから

人生は一度しかないとよく言われるが、また人生は一度で済むという見方もある。幸せな子ども時代をおくった人は、もはや永久に辛い子ども時代をおくる可能性から免れている。苦しい青年時代をおくった人は、もう二度と同じような苦しい青年時代を味あわなくてよい。年老いた人は若くして亡くなるという不幸には襲われることはない。安らかな死を迎えた人は、苦しい死への不安から完全に逃れているのである。インドには古代から、人を含めて全てのちあるものは、生まれ死んで、また生まれかわるのだという輪廻の思想があった。

古代インドの人々は、そのような生と死のくりかえしから逃れることこそ、人間にとってこの上ない幸せだと考えた。しかし、私には理解できなかった。たとえ死んでも何度も生まれかわれるのなら、それも面白いではないかと思つたものだ。

しかし三十五年いきてきて、やはり何度も生きかえるのはたいへんだと感じはじめた。戦乱や貧困を経験したことのない私だが、それでも生きていくことは不安に満ちたものであり、ここまで生きてきたという年月の長さや重さが、ひとつの安堵感を与えるのである。

「あの若かったころに戻りたい」という言葉は、おそらく若さの外面的なものへの憧れをあらわしたものにすぎない。誰が本気で、あの焦燥にみちた孤独と不安の若い日々に戻りたいと願うだろうか。私たちはしなやかさに富んだ若さとひきかえに、多くのものを学び、心には自ら憩うところを切り拓(ひら)いてきた。

若さとひきかえに私が学んだことは、何なのだろう。自分の小ささと人の深さ。すべて愛しいものは、別れの悲しさと許しの笑みを含んだまなざしを求めていること。この世のできごとは遠くから見える影と、近くから見ると姿は違っていること……。それから、なんだろう。

そう生きざるをえなかった、他に生きようがなかった人生ほど美しいものはないと



フランスの哲学者は言っていた。あまりに先のことを考えて、目まいを感じるより、一歩一歩、足もとを見て、この道をふみ固めていけばよいと思う。いつ、突然おわることかわからないこの行程は、どうやっても不ぞろいな形で残るしかないのだ。

試みをうけて、緊張のつづく毎日であるが、これもただ一度の日々のくりかえしなのだと思うからこそ、明日にむけて堪えることができる。ひとつひとつ、学校の宿題をこなして、ぜんぶやりとげるとほっとして眠った子どものころを思い出す。あのように安心してすべてを終えることができれば、それでよい。

(知)

おもろい 姉ちゃん

田 淵 美登利

### 指導員の喜び

私は、この夏とても素敵なプレゼントをもらいました。

私が担当するHさんは四五歳のおばさん(失礼!)です。

しかし、去年の五月に担当を受けもってから、私の気を引くための数々の事件でみせてくれたパワーは、ものすごいものでした。

泣く、怒る、わめく、廊下で寝転んで駄々をこねる、カバンを持って一人で駅まで行ってしまふ。

仮病なんて日常茶飯事で、新米職員の間も、毎日一緒に怒ったり泣いたりしていました。

そのHさん、長期帰省で妹が迎えに来ると、担当なんて知らん顔でダッシュで帰って行くのです。

ところが、この夏の帰省で妹の後を追いかけてダッシュした彼女が戻ってきて、

「先生、また帰ってくるわな。一緒に作業しような」と言ってくれたのです。

こんなことがあるから、指導員って、楽しくてやめられないんだろな!



# 美智子のこんな話



岸田 美智子

施設の中にありすぎるものは…

今の施設で足りないのは、職員数であるとか、設備の面であるとか、色々言われてきました。でも、足りないものを補ってもなくならない問題が残るのではないかと思えます。それは施設の中にありすぎるものというか、福祉的配慮がありすぎるということだと思います。

例えば外出したいときにも少し風邪気味であったりすると、担当寮母さんや施設の担当医が、本人の意思を抜きに外出をやめさせたりします。

また、多くの施設障害者の方が栄養剤や胃薬、緊張止めなどのたくさんの薬を飲まされていますが、これも本人の意志によっ

て飲んだり、やめたりすることはできず、一方的に飲まされています。

このような事が、色々な生活体験を奪ったり、障害者の一人で生きていく力を奪ったり、具体的に自立生活をしていくために大事な体力なども奪っていつているのではないのでしょうか？

普通の地域での生活では、のどが痛くて少し風邪気味でも出かけなければならぬときや、出かけた時があることなど日常生活茶飯事です。薬に関しても、全蒸飲まない人と、とてもよく飲む人があります。

このような事は、見逃されやすい問題かもしれませんが、とても大きな問題だと思います。先日の新聞記事でも健康管理のあり方がわかりやすくとりあげられています。この記事の内容は施設の生活と地域の生活の違いにそっくりあてはまるような気がして読んでいました。

それは「天声人語」に取りあげられていた、フィンランドの保健局が調査した健康管理に関する内容で、R・ジャカル、M・テヴォス共著、菊地昌美訳『安らかな死のための宣言』に紹介されている話。十五年間意図的に健康管理された人達と、いか

なる健康管理の対象にもされなかった人達（共に同じ職業分野、同世代）が六百人ずつ比較された結果、心臓血管系の病気・高血圧・死亡・自殺…いずれの数も健康管理されなかった群れの方が少なかった。

過保護が依存を生む。必要な医療は受けなければならぬが、健康保持には平生、自ら抵抗力をつけ、免疫機能を高める工夫が肝要と述べられていました。

## 井 感謝 します す 井

カンパ・バザー用の品・ジュース・水・冊子等、ありがとうございました。

お礼を申し上げます。

八月のカンパ 金三三、三五五〇円

旭 純子、安達尚子、伊勢村和子、

阿倍野区商店街連盟青年部、岡 賀寿子

加賀谷 正、角方鈴子、寿美ビル、

ジョイフルたばこアベノユニオン、

鹿野敬一、小西京子、高尾澄男、

中原友喜、三谷勢津子、藤井ゆかり、

八木千代子、山本鈴子、

匿名四名。（敬称略）

たくさんの古い有名な建物と、広範な文化的  
なプログラムを見ることができでしょう。  
あまりに多くて、街の全部の観光ができません  
でした。

あなたの休暇はいかがですか。

最後に私の新しい住所を記しておきます。  
なぜなら、ドイツでは7月1日からすべて  
の街が新しいナンバーになりました。  
あなたが楽しいときを過ごされますように。

ブリギッテ

Unna, 2.8.93

Dear Keiko!

Thank you very much for your last - very long - letter.  
It's very interesting for me to hear something of the  
typical daily life in Japan.

I'm sorry that you must wait for my letter so long time,  
but I've many things to do, because I've lost my job in the  
<Help Centre for Women> at 31. July 93. My working contract  
has ended and there isn't any possibility to get money from  
the government for extending my job. Now I'm unemployed and  
on the dole. I hope to find another job soon, but there is  
a crisis in the German economic system and many people are  
jobless. In the moment psychologists haven't good chances  
and handicaped people are often discriminated when they  
look for a job. But I'm still optimistic.

I use my free time for learning:

1. I learn to handle a computer and this letter is one of  
my first results.
2. I learn to drive with a bicycle, that I can't do since  
my stroke.

Besides I am visiting courses of sports for handicaped  
people in a special organisation, but we don't play soccer.  
It's a form of gymnastic to enlarge our general physical  
mobility. At last sometimes I go swimming, but I need water  
with a high temperature, otherwise I get a spasm. Do you  
practise any kind of sports, too?

Now something about my holidays: Two weeks ago I made a  
sightseeing-tour in <Wien>. <Wien> is the capital of  
<Austria>, a small nation near Germany. In Wien you find  
many old famous buildings and a large cultural programm. -  
Too much, that I couldn't see all the sights of the city.  
What's about your holidays?

At last I must point at my new address, because in Germany  
all cities get a new number since 1. July 93:

Briгите Ehrenberg  
Duererstr. 1  
59423 Unna  
Germany

I wish you to have a good time.

So far

Brigitte

## お知らせ

10月の出会い

内容 「秋の日本庭園へ」



10月の「サロン・あべの」は、いつもの研修室を飛び出して、堺の大仙公園内にあります日本庭園を訪れようと思います。当日は、堺が生んだ茶人・千利休をしのぶ「利休のふるさと堺大茶会」が、公園内などで開催される予定です。

集合 10月16日(土) 午後1時

JR阪和線百舌鳥駅 上り改札前

備考 ※身体障害者手帳をお持ちの方はご持参ください。また、公園内を歩きますので、動きやすい服装で。電動車椅子の方は、バッテリーにご注意ください。

※雨天の場合は内容を変更します。

※参加人数を確認したいと思しますので、必ず、事前にお申し込みください。

申し込み・問い合わせ先

☎06-691-1028 (富田慶子)

### ∞サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました∞

山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙86号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは39号から、86号の分があります。50号は5周年記念紙になっており、90分と60分の2本のテープに収録されています。

サロン紙朗読テープをご希望の方には、ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。(☎06-691-1028)

## ブリギッテさんからの手紙

たいへん長いお手紙、ありがとうございました。日本における典型的な日々の生活のいくつかを知って、とても興味深いものでした。

長いこと私の手紙を待たせて、ごめんなさいね。することがたいへん多かったもので。

なぜなら、7月31日に女性援助センターの仕事がなくなったのです。私の仕事の契約が終り、私の仕事を拡げるための政府からの援助の可能性が何もないのです。

今、私は失業手当を受けています。すぐに他の仕事を見つきたいのですが、ドイツ経済の危機があります。そして、多くの人々が失業しています。このところ、心理学者はよい機会がなく仕事を探るとき、障害者はしばしば差別されます。

でも、私はまだ楽観的です。私は勉強するため、いまの自由な時間を使っています。

1. コンピューターの操作を習っています。

この手紙は、その最初の成果です。

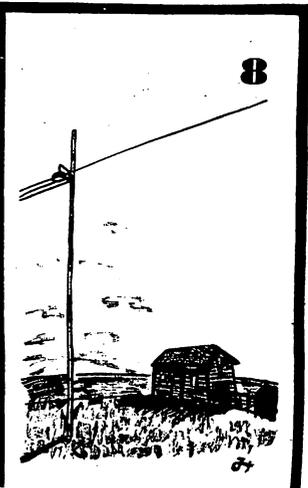
2. 自分でこぐことができないもんで、自転車の練習をしています。

一方で特別な機関での障害者のためのスポーツのコースに行っています。しかし、私たちはサッカーはしていません。それは、一般的な肉体の動きやすさを拡大するための体操の形です。ついに、私は水泳にも何回か行くことにしたのですが、それは高い温度の水を必要としますし、他方で私はけいれんもします。

あなたも何かスポーツをなさっていますか。

さて、私の休暇について少し：

2週間前、ウイーンへの観光旅行をしました。ウイーンはオーストリアの首府です。ドイツの近くの小さな国です。ウイーンでは、



# はあとがはろー!

長居公園とサロン活動

富田 慶子

今年の夏は、あったような無かったようなと気象庁の発表がありました。秋空はカラリと晴れて欲しいものです。と言いますのも来月のサロンの出会は、久しぶりに外へ出掛ける予定を立てているからです。これからの季節、大空の下でおしやべりに花を咲かせるのも楽しい事と思います。ぜひ、ご参加をお願いしたいと思います。(今回は堺の大仙公園)

さて、サロンが育徳コミュニケーションセンターの外へ出る機会は見学会や交流会等色々ありますが、レクリエーションの出会

では、昭和六二年十月のサロンでのボウリング大会(長居の市立身体障害者スポーツセンター)が、初めてでした。

ボウリングに接したことのなかった私はこの日を楽しみにしていました。が、前夜から台風十九号が上陸(加古川から若狭へ抜けた)、お天気は荒れ模様。それでも午前中に解除、早速長居公園内にある身体障害者スポーツセンターへ向かいました。

通常、サロンでは事前に参加申込みを受け付けていませので、この日も何人の方が来て下さるか見当が付きませんでした。

でも、誰も来られないという事はないと考えていました。やっぱり空模様を気にしながらも来て下さった方々がおられました。総勢十三名が、二レーンを借りきって三時過ぎまで、様々なホームでゲームを楽しみました。

私は、手に力がなく、指に変形もありましたので、ボールを投げるなんて考えもしませんでした。皆さんのゲームを楽しませてもらおうと考えていたのです。ところが、こういう身障者用にパイプで作られた滑り台様の用具が用意されておりました。その台にボールを置いて、おもいきり押すとボールが転がり落ちてピンをめがけて走りま

す。ピンがガチャンと倒れる一瞬、息を詰めていた気持ちが、その音にはじきとばされて「オウー、やったー」と声になってほ

とばりました。その時の感動は今までに感じ得なかったものでした。スポーツの楽しさも知らなかったのですから、この時のピンの倒れる音はとて新鮮に響きました。ボウリングは簡単に見えて、なかなか難しいところもあるようで、溝掃除に専念される人もいて、おもわず笑い声があがります。その点、滑り台を使う私は、方向さえ決ればピンの何本かは倒れますので、点数はほどほどでした。

ささやかながら賞品も用意されており、一位ゼロテープカット、二位ミニハサミ等ひとひねりされたものでした。

十一月のサロン(十七日)は、あべのボランティア・ビューローが主催された「交流会ミニピクニック」に参加しました。これは、阿倍野区内の老人福祉センターのデイサービスを受けておられるご老人方、阪南たんぼぼ作業所の仲間達、ボランティアスクールの受講生方、お手伝いのスタッフの方々等、総勢五十余名が長居公園の植物園で出会いました。芝生広場でお弁当を食べ、小グループに分かれて宝探しゲームをしたり、クイズ、ゼスチャーで競い合っ

て最後はフォークダンスで全員輪になって楽しみました。風が冷たく吹いていましたが、老若男女健常者も障害者も共に楽しみ

心がホコホコと温まる出会いでした。

この様な出会いは、昭和六三年十月二九日の長居植物園で「みんなが集う交流会」と、平成元年十一月二五日の市立身体障害者スポーツセンターでの「ふれあい交流会」の二回が開催され、多くの人達と和やか

に過ごせた事がなつかしく思い出されます。

又、サロンでも平成元年十月二二日に「大阪の自然史をたずねて」と題して長居公園を訪れています。博物館で昔大阪湾に鯨がいたという証拠の化石を観て、太古の大阪人の生活がともにおおらかだったろうと

想像しました。この時は、米国の青年ボランティアが何人か来て下さり、おもわぬ国際交流の場ともなりました。

この様に長居公園は、サロン活動にとつてなじみのある場所となっています。

大連に四ヶ月余り住んで

中村 美根子

## 我在大連住了四个多月

連載第二回

七月十四日、雨の大阪に四ヶ月半ぶりに帰って来ました。

フア〜蒸し暑い！じっとしていても汗が

流れて来ます。大連の夏は朝晩の涼しさは

言うまでもありませんが、湿気が少なく、

日中でも日陰に入ると風があるからしのぎ

やすい。ただ、今年は異常気象で、雨が多く「三寒四温」。四月十日の写真は着れる

だけ着たダウン姿、十五日はトレーナー姿、

五月一日はトレーナーにジャケット、五日

はセーター、二五日は半袖、六月の初めは

長袖にジャケット、今も（七月の終り）朝

晩は長袖が必要。三月、四月は風が強く、

乾燥に悩まされました。

それでも暇をみつけては汽車（バス）や

チンチン電車、トロリー汽車などに乗って

大連散策に出かけ地図を片手に歩き回りました。

労働公園、老虎灘楽園、馬大（港）、植

物園、児童公園、中山広場、星海公園、白

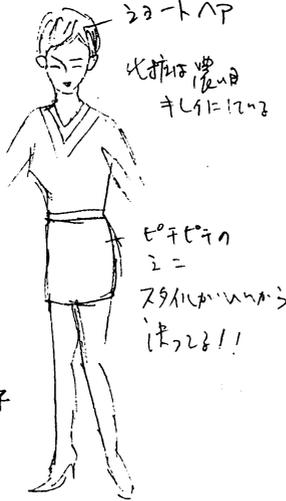
雲山、金沙灘、銀沙滩（海水浴場）…等等



中年女性に  
多岐な  
種類の髪  
思わす子に色を足す



今年の流行は  
ロングのTシャツに  
短いスボツ



ショートヘア  
化粧は薄く  
キレが良い  
ピチピチの  
ミニ  
スタイルがいいから  
はっぴい

イラスト・中村美根子

天津街、昆明街などはよく買い物に行った所。バスも乗り方が解るとただ当ても無く始発から終点まで乗ってたりして…

喋らなかつたら日本人なんてわかりませんものネ。日本の給料もらって中国で住めば大名生活ができますが、私もだんだん中国人になり、日本人旅行者の人達が「安い安い」を連発しているのを第三者の目から眺めていました。一目で日本人旅行者とわかるオジサン、オバサンのグループには閉口！腰のポシェット、カメラ、ゆびわに時計、首輪に耳飾り、帽子に、革の財布(中国の人はサイフをもつ習慣が無いみたい)から多額の兌換券での支払い(わたしや金持ちの外人だつせと宣伝している)そして旅行会社の迷子札(バッジ)、静かに買い物をしたらしいのに、安い安いの連発…九五%同一民族、日本語だけで十分生活できる国ニッポン。

日本人以外の留学生は何カ国語も外国語が話せます。

「日本人はこれだけ外国に出ているのに英語のひとつも話せないのか？」

德国(ドイツ)から東洋医学を学びに来た二九歳の男性の素直な意見。彼は母国語以

外にフランス、イタリア、スペイン、英語が話せ、奥さんはそれにアラビア語、もろ中国語も。コミュニケーションにはその国の言葉が一番。耳のイタァーイ 一言…やおませんか…

通訳をつけ、添乗員をつけ、すべて日本と比較する…、ここは中国語の通じる中国と言う国やで…。日本はほんま平和や…。

外国旅行をしたことの無い友達に——中国——を聞いてみた。

『皆、人民服を着ている、汚い国』

TVからの安受けもいいところだつせ。

たしかにとても不便(すべての面で)な所だけだ…その場にならないとなんの情報も無い所だけだ…：時間にルーズ、計画性が無い、いいかげん…でもそれは日本人の感覚からで、それこそ「ここは日本やおませんにゃ…中国でつせ」と言う中国人の言葉が聞えてきそう…

○ おわび

本紙八六号の二頁目、二段目と三段目の文章が入れ替わっておりまして。おわびしめて訂正致します。

編 集 後 記

今年も福祉広報紙コンクールで「優良」に入選しました。と、ご報告できることをうれしく思います。もちろん、これは書いてくださる方、読んでくださるみなさま方のお陰あつてのことと感謝しています。昭和62年から連続しての受賞で、ちょっぴり面映ゆく、ちょっとだけ誇らしく思っています。でも、兜の緒を締めるのも忘れていません。

本紙は<100号>まであと13(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.87[93.9.18発行] 定価¥100.  
代 表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303. 電話06-621-4365  
連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028  
表 題；斉藤孝文・筆  
印 刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.